

第6回 新宮市文化複合施設管理運営検討委員会 会議概要

日時：平成28年8月8日（月） 午後1時30分～午後4時00分

場所：新宮市人権教育センター

【出席委員】		堀内委員長、 川口委員、船上委員、高委員、 榎本委員、雑賀委員、竹中委員、 城庵委員、那須委員
【欠席委員】		勢古副委員長、関副委員長、山本委員
【事務局】	文化振興課	楠本教育長、片山教育部長、畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、小林主事、篠原主事、古川主事
	図書館	道前係長
	シアターワークショップ (TWS)	伊東氏、川本氏

〈開会-委員長あいさつ〉

委員長

地元新聞等の切り抜き資料もいただいております。文化財以降の問題、設計の見直し、位置の問題など議論されていると伺っている。この委員会は管理運営計画の検討委員会である。基本設計の市民検討委員会から引き続き参加いただいている委員もいらっしゃる。市長に厳しく問いただしたとおり、基本設計後のさまざまな状況変化、環境問題については提言書で基本的な趣旨を述べている。この管理運営検討委員会については時期の延期・場所の部分変更等に関わらず、文化複合施設が建設されたときに管理運営の基本的な在り方について、きちんと学習・検討課題を分析して提言するという任務がある。各問題については直接この管理運営検討委員会では議論の俎上に載せないが、市長・教育長にも要望したとおり、正式に市のその後の状況の説明をお聞かせいただきたい。本日は市長が公用で出席できないということで、教育長から報告事項の2番め、文化複合施設の整備方針について現況を本委員会にも説明、報告をいただきたいというお願いをしている。

報告事項2点ありますが、本来報告事項2昨日実施された第4回市民ワークショップについて、TWSからの報告よりはじめる。

<報告-1 第4回市民ワークショップについての報告>	
TWS	第4回市民ワークショップについてご報告
【第4回市民ワークショップに関するご意見】	
委員	- 前回、昨日が10名少しと少人数だったのが大変残念ではある。一方で参加していただいた方はとても前向きに様々なことを考えながら参加しているということを感じられた。市民が例えば申込方法、貸出時間の設定、開館時間、休館日などについて24時間開けたい、年中無休だというような声が多々あがった点がとても面白いと感じた。現実的にどうかは別として、そのような声がでてきたという部分がとても大きいと感じる。 - 回を重ねることでより参加者が慣れてきていると感じた。はじめは漠然と希望や夢を話し合っていたところから、実は具体的に公共施設というのはこういうことがある、こういうルールがあってこういうふうにお金が使われてということも勉強してきた。だからこそ建てていただく市民も感謝する、造る・支える人にも感謝し、皆でつくっていかうという方たちが見えてきたと考える。細分化して次の段階でワークショップをたくさん実施することで、よりよい施設の管理運営になっていくと思う。 - 昨日は人数が少なくてさびしい気持ちもあったが、参加した方々は熱心に意見を交換していた。題材が時間のことや料金のことに限られていたので、出る意見も限られたという印象があったが、参加者の意見を聞き、そこからどのように本当の運営につなげていくか考えるためにはいい材料が揃った。そしてTWSからの話もよく分かり、これから本当に管理運営を市民で行っていく形が少しずつ見えてきたと思った。 - 昨日は合計で17人と大変少なかった。自分のチームは4人、うち1人ははじめての参加者で見学のような形で参加した。2人は初回からの参加者で、開館を目の前にして使用時間や利用の形態など本当に一生懸命に考えてくれた。実際開館にあたって、この時間だと利益が取れないというように本気になって考えていただいてうれしかった。また今後も話し合いをしたいという言葉も聞いた。
委員長	ありがとうございます。私も4回のうち初回と昨日出席させていただいた。岸和田市立浪切ホールやマドカホールの際もワ

	ークショップを行ったが、新宮市は岸和田の7分の1ほどの人口である。20万人規模の都市である岸和田でも参加者が50人か60人程度だった。ワークショップについて、仮に新宮市で20人としたら、単純比較はできないが岸和田であれば100人から120人が参加しているということになる。関心の度合いの評価はさまざまだが、それぞれ自分の意見を言える雰囲気になってきたと感じる。 - 私の専門である生涯学習論で考えると、パリのユネスコの学習権宣言というものがある。簡単に紹介をすると、学習活動は教育活動の中心に位置づけられ、それは人々の成り行き任せの客体から自ら動いて歴史をつくり主体に変えていくものだという内容である。いままで客体で市が決めたことがあり、管理運営についても開館後、いろいろ批判も起こると考えられるが、民主主義の一番大事なことはプロセスに住民の意見を参画させるということだと考えている。ワークショップはまだまだ不十分なところがあるが基本設計の検討委員会、それからこの管理運営検討委員会を含めて新宮市はその歴史や環境、現状があることはわかっている上で、事務局にできるだけ市民参加、女性参加などプロセスに時間をかけていただきたいということをお願いしてきた。ワークショップもシアターワークショップと協力して生の意見を委員会に反映させて、この検討委員会の提言に取捨選択しながら取り込んでいくということになる。 4回で一区切りだが、委員会としてもシアターワークショップとしてもワークショップに参加された方に管理運営検討委員の提言をフィードバックするということは必要である。4回のワークショップは終わったが、そこから優先順位をつけて、なにを文化交流施設の管理運営の中身として、どういう提言をしていくのか、ということに反映していきたい。まずはワークショップについての報告を教育長の説明に先立って行った。
委員	4回を終え、参考までにお伺いしたい。検討委員を除いた新宮市の方、那智勝浦町の方が何名という、その構成を知りたい。新宮市民がどうか、また近隣がどう求めているかということ考えた。

事務局	検討委員の他、高校生が3名、全体17名である。ほぼ新宮市内、勝浦からも毎回参加してくれている方がいる。今回は資料も用意していないが、毎回それぞれの会の参加者の比率などを記録している。次回までにまとめる。
委員	事務局に4回分の、名前は伏せてもいいが男女比率、年代など、4回分の統計的な数字をお願いしたい。
<報告-2 文化複合施設の整備方針についての報告>	
委員長	本日は文化複合施設の整備方針について、教育長よりご説明いただく。よろしくお願いいたします。
教育長	- 文化複合施設の整備方針について、ご存知のとおり建設予定地に埋蔵文化財がでてきている。その取り扱いについてどうするのかということで、先の6月議会でも議論になった。当初文化財の価値は分かっておらず、そこに施設を建てるということで記録保存を考えていた。そののち、文化遺産担当である県教育委員会の文化遺産課との協議のなかで、記録保存だけではいけない、この価値を再認識してくださいというやりとりがあった。議会終了後7月5日の日に市長ともども知事のもとを訪れ、都市再構築戦略事業のことを含めて、また市の考え方について知事報告をおこなった。知事報告の際には文化財担当の県文化遺産課もきていた。市長から都市再構築戦略事業は5カ年だが、5カ年で調査する関係上、この5年以内ではできないため期間を延長させていただきたいということ、そして都市再構築戦略事業の目的は人の流れを中心市街地に持ってくることで、そのために公共施設を増やしてそこへ設置するという、その目標・戦略は変えることができないとお話した。そのなかで遺構をどうするのか、遺構の保存については現地保存、現状保存、記録保存、移築保存等、そういったことを考えながら施設設備を現地の旧丹鶴小学の西側にホールを移動させて、埋蔵文化財についてはできるだけ先ほど挙げたような保存をしていきたい。そういう考えを持っているということを説明した。 - その際に鎌倉時代それから室町時代の4つ地下式倉庫が大変重要であるため、これを最大限残していきたいということがあった。施設を配置するにはホールの施設規模を少し縮小せざるを得ないかもしれない。知事からこの遺構については紀伊風土記の丘のような、そのレベルの文化財ではないだろうということで、担当課には新宮市の考えていることに配慮しながらでき

	る範囲で遺構を残していくようにという指示があった。県にはご理解いただいたと理解し、翌日に庁内の文化複合施設検討委員会のなかで、この考えを持って複合施設の建設にあたっていこうということで機関決定した。概略、現状のご報告である、よろしくお願いします。
【文化複合施設の整備方針に関するご意見】	
委員長	・ 地元新聞が書くことで市民的周知を図られてることも事実なので、その際に教育長から説明があったこと、議会に市長が趣旨を説明されて、その後商工会議所、商店街の関係の組合が議会に申し入れしたという記事も読ませていただいた。各委員から教育長の説明に、あるいは市議会に申し出したということでご意見があれば、あるいは質問があればお話しいただきたい。
委員	・ 新聞等で読んだ知識しかないが、教育長に伺いたい。西側にずらすということだが、西側というのはどこになるのか。建物の効果や利便性も大切だと考えている。 ・ 駐車場の部分に全体を寄せて、いままでつくる予定の文化ホールの真ん中に寄せたようなイメージをしている。商店街としてラストチャンスと考え、商工会議所の会頭をはじめお願いした。一人ずつ現状を聞いてどのように考えているか、一人ずつお伺いした。なんとか早く建てられるようにしたい、ワークショップもこのように今後開館したらどんなことをするかと、市民参加で議論している、できたら参加いただきたいとお話した。 ・ まず全体的に物事が非常にうまくいってないと考えている。平成20年の3月31日で丹鶴小学校が閉校になって、いまはもう28年である。途中でなぜ遺跡の調査があったのか。ある程度計画を進めてしまえば県も国も首を縦に振らざるを得ないと考えて物事を進めたのか、そこが気にかかる。民間の感覚であれば、例えば若干お金がかかっても調査を実施して、その結果を県と国にここしか建てる場所がありませんと予算もあります、ぜひお願いしますという前置きをしてから実施するものだと考える。また商工会議所有志で市長、副市長をお呼びして懇談を行ったが、基本的には市の方針としては予算第一主義だと感じる。結果3棟案が2棟案に、そして副市長も最後に維持管理費がかかるとお話されていた。予算は大切だが、ただ予算ありきのなかでいま設計を変更すると、またその期間が

	さらに2年伸びる、矛盾しているのではないか。平成24年の3月末の段階でもう一工夫する方法がなかったのか。それを教えていただきたい。
教育長	財政的なことについて、なぜもっと早く発掘調査しなかったのかということだが、これは都市再構築戦略事業の交付金事業の対象になったため、そこへ施設を建てることになってはじめて発掘できた。これは発掘費も多く取れている。放っておいたのではないということをご理解していただきたい。そして場所を西側に移すというところでは、できるだけ西へ寄せて、いままで検討してきた施設の検討委員会、基本設計の精神を活かせるものを建設していきたいという考えである。
委員長	- 議会にも市長、知事の打合せ後に市の方針としてご説明されたということですが、そのとき図面も提示されましたか。速玉神社側に駐車場の用地のほうに変えるという点を、議会にご説明したときは図面はありましたか。この委員会でも必要であれば図面を提示いただいてよろしいですか。 - この件は一応閉じたい。議員の中にも昨日、また継続してワークショップにご参加いただいた方がいらっしゃる。調査については、再構築戦略事業の場所選定の了解を得てから調査を行ったため、知らぬふりで推進したわけではないということである。個別にお伺いしたいことは他にあるかと思うが、管理運営の委員会として本務を果たすことにしたい。管理運営委員会以外の場所で市民が話し合うこと、提案されることは自由なことである。
委員	難しいと感じている。熊野学がどうなっているか、熊野学がなかったら話にならないのではないかと色々な方から言われており、責任をとって辞めようかなと思っていたが、遺跡がでてきたことで流動的な要素も出てきているため、もう少し様子をみたいと思っている。端的に言うと遺跡、中世の新宮、熊野三山のなかでどう位置づけできるのかということはまったくわかってなかった。そういう面では非常に重要な遺跡になるだろうと思っている。特に熊野三山信仰という信仰だけで彩られてきた新宮、あるいは熊野三山について経済活動、物流拠点としての位置づけもできていると思っている。那智川の河口に遺跡がでてきたが、あれよりも規模の大きなものと考えてよいのではないかと。今後の発掘の成果を見守っていきたい。

委員長	文化振興課が文化財の件の窓口になる。文化複合施設も担当しているため、守る動きと建設の動きがあり、担当課長としていまの時点の思いをお聞かせいただきたい。
事務局	お手元に資料を配布させていただいた。これが当初計画していたホールの部分をそのまま西側に移動したという場合のイメージということでご理解いただきたい。このままでは河原町通りなどがかかっているが、あくまで今後この施設の規模あるいはかたちについて考えることになる。まずはそのままのイメージ図ということでご理解いただきたい。
委員長	確認だが、これは行政の固まった案として議会に提示されたのか。3070 平米が担保できないこともあるため仮のイメージとしてこの図面があり、ここから微調整・再検討の余地はあると考えて良いものか。
事務局	そのようにご理解いただきたい。あくまで西側に移動させた場合のイメージ図として議会にも提示している。市長、教育長が知事に報告へいった時点での情報である。今後精査して詰めていくことになる。
<議事-自主事業方針について>	
TWS	自主事業方針について説明を行った。
委員長	赤色の文言が入った自主事業方針については、基本計画など踏まえたうえで、現時点における自主事業基本方針についてこれでよろしいか。修正・意見などあればお出しいただきたい。
委員	【自主事業方針、WS で出た内容についての意見】 4 番、市民の文化活動発表の場という部分について、ダンス、バンド、吹奏楽部と連記してしまうと、お茶、お花、書道、絵画の文化活動はどうなるのかということになる。この地域はお茶、お花、書道、絵画等々熱心なところであり、そこに少し配慮がほしいと感じた。また 5 番めの御燈祭の着付け教室という文言は違和感がある。 - 例として挙げている文言について、具体的に列挙する必要があるのか疑問に感じる。5 番目、地域文化への関心を喚起するという部分について観光の活性化を目指すところがあるが、観光のみの活性化・外向けの内容のみに言及しているように思う。地域、町中の活性化、市民の活性化ということも含めていく必要がある。 5 番目、「お燈まつりなどの神事」とあるが、祭礼行事というほうが良いのではないか。

委員長	この5つの項目の説明について委員各位から意見があった部分は、どのように表記されていくのか。常に5つの大項目の下に併記されるのか。
TWS	管理運営計画上で併記される。
委員長	その指定も含めて、もし修正案があれば合わせてお示しいただきたい。
委員	先ほど出たとおり、観光の活性化については自らが住んでいる地域文化への関心を持つことが、ひいてはその結果観光へも通じるという記載の方が良い。
委員長	各委員からいただいたご意見を合わせて、「観光のまちづくりを進めます」という柔らかな記載で良いのではないかと。本日は自主事業基本方針を誤解・曲解を生まない程度に定めて、最終提言書にこのとおり載せるかどうかについてはまた改めて議論する。ただし基本の自主事業基本方針を踏まえたうえで開館イベント・組織・指定管理の話に入っていくため、他にご意見がなければTWSよりコメントをいただきたい。
TWS	- 出来る限りイメージを喚起しやすいように、丁寧に説明をしたいということで事例を多く挙げている。事例で挙げているものも、これは市民ワークショップで挙げたご意見を大事にしようということで出てきたアイディアを取り入れている。先ほどの着付け教室も市民ワークショップの中でご意見があったので盛り込んでおいた。もし違和感があれば変更するか、事例を増やしても良いと感じている。 - またダンス、バンド、吹奏楽という例示は文化協会であれば、舞台系の活動ということになる。他に展示や生活文化について、言葉を増やして丁寧に解説ができれば良いのではないかと。
委員長	各委員のご意見をふまえて、ダンス、バンド、吹奏楽などはワークショップで出た内容を取り入れているが、もう少し例示を増やして生活文化、書道や着付けも含めて挿入するようにしたい。また観光の部分についてはいかがか。
TWS	確かに観光の活性化だけを目指しているように見えてしまうのは確かにそのとおりだと感じる。その表現をまちづくりという大きな基盤があり、そのなかに観光も含まれているという表現にさせていただく。
委員長	各委員に意見、気がついた点はお出しいただきたいが、管理運営の件に関しては最終提言書をまとめる際にもう一度お諮りする。

	一旦は正副委員長と TWS に表現をお任せいただきたい。 ・ また 1 行めに「熊野圏域住民」と書いてあるため、3 行めも「圏域住民」の前に「熊野」を付けた方が良い。
委員	・ 委員長からいただいた方針どおりで問題ないが、文言だけに気を取られずに市民から、ワークショップの中ででてきた意見・具体的事例をきちんと盛り込んでいただきたい。言葉・文言だけが先行してしまうのはよろしくない。せっかく若い世代からたくさん出てきた意見をしっかりと考えていただきたい。
委員長	・ 委員からの意見について承知した。 ・ 一方でそこを立てたら、もう一方は立たないような表記についてはバランスを取る必要がある。
委員	・ ワークショップに来ていなかった層がある。私自身が作業所の理事でもある。その人たちの声が入っていない。これにいれるべきかどうか、どのような表現になるのかまったくわからないが、そういう視点もあって良いのではないか。
委員長	・ 「幅広い世代」という流れのなかで検討するのが良いかと思う。
委員	・ 表現については十分な検討を行っていただきたい。
委員長	・ ありがとうございます。それでは自主事業方針について基本的了解を得たということにさせていただく。個別の文言については一任いただき、提言書の際に最終チェックを委員会で行うようにする。この基本的な自主事業方針をもとに開館・組織形態の話に入っていきたい。
<議事-プレイベント・開館事業方針について>	
TWS	・ プレイベント・開館事業方針について説明を行った。
委員	【・プレイベント・開館事業方針についての意見】 ・ プレイベント方針の案の 2 つめ、「商店街や学校、ボランティア市民センターなどと連携した活動をはじめ」という内容だが、商店街、学校がクローズアップされすぎている印象を受ける。確かに学校や商店街と連携することは大切だが、これが冒頭にくるのはクローズアップされすぎているのではないか。また開館記念事業方針の 1 つめ、「多彩な公演が並ぶ」というところで、これは学校などと連携するというのが前提になる。学校の吹奏楽を利用する、またワークショップのなかで複数の学校が連携した文化祭を実施するという意見が学生からでていた。市民の文化というものは、学校を含めてということでここは逆にクローズアップさせなければいけないのではないか。また基本的な考え方に「圏

	域住民」という言葉があるが、新宮を1つのコアとして周辺にも発信できるという思いを入れてほしい。 ・ 先日シルク・ドゥ・ソレイユを見にいった際、隣の会館を見たら始皇帝の展示を行っていた。集客もかなりすばらしかった。文化活動という主張について、検定や展示をもう少し押し出していたきたい。また先ほど委員からもあったが、商店街や学校、またボランティア市民センターと記載されている。ボランティア市民センターなどと連携した活動のイメージが浮かんでこない。私自身がボランティア市民活動センターの運営委員だが、あまりワークショップにこだわってしまうと、それ以外の意見というのが入ってこない。少し大きく捉えた意見にしていただけただほうが良いのではないかと感じる。 ・ 絵画・華道・書道をホールで見せる方法もある。そういったものをアートというとても大きな括りでいれていただければ良いのではないか。またイベントはとても大事だと思っている。例えば図書館、文化について勉強するために関わって、実際に自分がそれに関わることでつくっていくのだということを教えるためにイベントが重要になるのではないか。その重要性を強調したい。 ・ イベント方針の2番め、「開館に向けた取り組みを町や熊野圏域全体に広げる」という文言の「町」がいままで漢字ではなくひらがなだった。ひらがなに修正したほうが良い。 ・ ワークショップでかなり多様な意見が出てきたが、よくまとめていると感じる。 ・ 細かく「文化」という言葉がでてくるが、もう少し説明を加えたら良いのではないか。 ・ 誰がどう結びつけていくのかという提言が出てこない。これは教育委員会だけでは実行できない。仲之町の商店街と学校、ボランティア市民活動センターと誰がどう結びつけていくのか。市民の言いつ放しの文言を受けて書いては責任ある立場の方は困るのではないか。ボランティアなどについても具体的取り組みについては配慮されていない。 ・ 開館記念事業は良いが、その後継続的に自主事業へと書いているが、自主事業を行うかどうか、どれくらいの頻度で行うかについてはこれからの検討になる。簡単に自主事業と書いてしまうと、業者をお願いしてイベントをやっていただいて、そこへ市民の活
--	--

	動をいれてもらうというかたちになるのか、市民会館運営委員会をつくって市が仕組みをつくるのか、それが決まってからでないと難しい。「自主事業へ」という部分にできるだけ、「自主事業の活動も」、という表現が良い。
TWS	2つ大きなポイントを考えている。確かに市民ワークショップの意見を最大限活かそうとしているが、どうしてもホールに偏った議論になっている。図書館の部分が非常に弱くなっている。図書館の場合のプレイベントはどのようなものになるのか。愛媛県の伊予市では同じように図書館とホールの複合施設を検討している。プレイベントのなかでは例えば選書が挙げられている。図書館の命はどういう本を並べるかということ、その選書についても市民のご意見をきちんと聞いていこうということで選書委員会を立ち上げて準備を行おうとしている。ぜひ専門の先生方のご意見を足したい。足りないところを補っていただくというところをぜひお願いしたい。 - もう一つはホールと図書館ということで、芸術文化のなかでも特に舞台もの、実演芸術が中心になっているが小ホールを多目的ギャラリーと呼んでいる。ホールというと実演芸術のための空間になるが、ギャラリーというとアート・展示系のための空間になる。設計の意図としても小ホールは平土間の空間であり、これは実演芸術系だけではなく、もっと幅広い使い方ができるだろうと考えられる。平土間大空間であればアートでも使え、さらに広くいえば商業展示などにも使える。あまり舞台系のものとしての捉え方だけでなくいいと考えている。 - 逆にいうと関係する団体の挙げ方についても舞台芸術団体は当たり前だという見方をしており、そこは確かに薄くなっている。協力してくれる団体もそれ以外の団体というふうな言い方になっているかもしれない。これを反省点として考えている - 今回つくるにあたってワークショップのご意見をまとめた際、そのホールでなにかしている人、なにかすることというのが中心になっているものが多かった。熊野文化という言葉がたびたびでくる点についても、熊野文化に関する発表をおこなうというようなご意見の書き方が多く見られた一方、熊野文化ってなんだ、よくわからないから勉強会をしたいというご意見も何回もでていた。プレイベントのなかでそれを知るというような内容もいれてみてもいいと感じている。

委員長	今日はこのあと市民参画と組織について協議する。誰が運営するのか、誰が担うのかというところはとても大切なところ。問題は多くの委員からあった通り、もらってくる事業リストや業者に丸投げしてつくるような施設にしたら意味がない。だからこそこのワークショップや委員会を行っている。市民参画の在り方や運営主体論について、TWS から説明をお願いしたい。
〈議事-市民参画の方向性について〉	
TWS	市民参画の方向性について説明
委員長	本日は市民参画と組織形態、運営主体について議論する時間が限られている。ご質問だけいただきたい。
委員	TWS から見て新宮市の場合ほどのパターンが1番良いと思うか。
TWS	あまり焦って指定管理にするのはやめましょうというご提案を近年はしている。せめてオープンして安定するところまでは行政がきちんと責任を持ってやりましょうという内容でお話している。最低3年というところまでは市が直営でやるべきだろうと考えている。そしてホールだけではなくて図書館があつて複合機能であるという点。これは行政的にも条例のつくり方にも影響してくる。まずは直営でいくのがいいというふうにおすすめしている。
委員長	一点質問だが、この運営体制について参考になる文献はあるか。
TWS	これを読めばすぐにわかるという文献はないが、例えば地域創造という財団が出している季刊誌がある。
委員長	新宮市の図書館には置いてあるのか。
事務局	雑誌棚の既存の雑誌のところに最新号だけ置いてある。既刊は保存していない。
委員	市民参画について、新宮地域は過疎化がかなり進んでいる。若い世代は高校を卒業すると大学にでていってしまつてそのまま帰ってこない。なかなか若い世代が育ちにくいという実情がある。そういった過疎化が進んでる地域での市民参画の在り方で、特に若者がどんなふうに関わっていつているのか。例えば高校生が企画主体のなかに入っていることがあるのか、例えば中学生がどうか、そういうようなことを少し教えていただきたい。
TWS	中学生はなかなかない。茅野市民館もまさに文化活動をやってる方は高齢者ばかりだが、事業を組もうとすると子どもの事業ばかりになる。その中抜けを懸念して、若者向けのイベントを行っている。例えば大きなバンドが来た際に、オープニングアクトを地

	元の若いバンドにやってもらなど、若者たちが活躍する場をつくることによって関心を引き寄せようということを試みている。 黒部コラーレは子どもたちの劇団や合唱団をつくっているが、20年経って大人になって戻ってきて、また指導者になった、種を蒔いたのが実りははじめたということもある。長期的なビジョンのなかで若い人たちがその施設を使ってもら、そこが自分たちの活動の場だと思ってもらえるような仕組みはつくってきている。
＜議事-委員視察について＞	
事務局	管理運営検討委員会視察についてという資料をご覧いただきたい。まず視察については目的として先進事例の運営に対してや運営状況などから、指針となる管理運営計画を策定するための知見を得ることがある。視察先については長野県茅野市民館と塩尻市市民交流センターである。日程については、来月9月の15日木曜日から16日の金曜日一泊二日でおこないたい。
委員長	塩尻は複合施設のなかに図書館がある。図書館がまちづくりの拠点になっている。
事務局	またその次の検討委員会の日程については、10月4日火曜日、午後1時半からの開催とさせていただきたい。

以上